

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 4月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	1270901836		
法人名	株式会社 トータルケアサポート		
事業所名	グループホームさくらの家 東船橋		
所在地	千葉県船橋市東船橋1-21-12 (電話)047-460-7078		
評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都文京区本駒込3-15-10		
訪問調査日	平成19年3月6日	評価確定日	4月20日

【情報提供票より】 (19年2月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 3月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	10 人
利用定員数計	9 人
常勤	4人, 非常勤 6人, 常勤換算 6.6人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り
	2 階建て, 2 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (2月 24日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	76 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	セコメディック病院、すこやか医院、デンタルハート歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1. 地域密着型サービスを提供するのに最適の閑静な住宅街に立地し、しかも最寄の駅から徒歩5分の近さにあります。 2. 毎週1回入居者一人ひとりに各種アロマセラピーを実施しています。 3. 日中は玄関の施錠はせず、入居者が1階の玄関ホールまで降りて徘徊する場合に備えて、玄関内に取り付けたセンサーが感知し、2階の介護職員の腕にはめた“知ルウォッチ”が振動で知らせる報知システムを採用しています。(夜間は、玄関の施錠と本システムの併用。)

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 1. 運営理念とサービスの実情とのギャップを無くす改善 2. 風呂場の約30センチ段差のバリアフリー化 3. 利用者のアセスメント表作成の取り組み 4. 介護職員の補充 上記3項を除いて1. 2. 4項は依然改善されていません。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は管理者とケアマネジャーのみで取り組んでおり、運営者や他の介護職員が参加するまでに至っていません。今後運営者を含めて職員全員で自己評価と外部評価を実施する意義を理解、共有化し、評価に基づいて具体的改善を進めることが期待されます。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は今年3月中に設立、開催するべく取り組んでいるため、討議内容や取り組みについては今後の課題です。構成メンバーは利用者、家族、自治会代表、民生委員、地域包括支援センターが予定されているとの説明を管理者からを受けています。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 各利用者の家族へ月1回本人近況報告を書面で送付するだけでなく、年1回の家族会、また家族の来訪時に意見等を聴いています。加えて、近々設立予定の運営推進会議開催を通して、こうした意見等を今後外部に透明化して、ホームの運営に反映させることが望まれます。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に入会しているものの、開所以来地域との交流や連携は行われていません。まず第一歩として自治会役員のホーム見学に取り組み、これをきっかけにして敬老会等の自治会行事に参加するなどして、地域との交流や連携を深めることが望まれます。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当時の理念が控えめに壁に掲示されていますが、地域密着型グループホームとしての事業所独自の理念はまだ作られていません。	○	期限を設定して、そうした独自の理念について運営者を含めて職員皆で話し合っって作り上げることを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開設時の理念を日々実践するべく努力しているようですが、その理念を共有化し、日々実践するまでに至っていません。	○	皆で新たに作り上げた独自の理念をサービスに反映、実践することが望まれます。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会のメンバーではありますが、自治会の行事等に参加していません。	○	まず第一歩として、自治会役員のホーム見学に取り組み、これをきっかけに自治会開催の敬老会等の行事に参加して地域との関係作りを行っていくことを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者とケアマネはその意義を理解し、改善に取り組んでいますが、運営者や他の職員が理解し、改善に取り組むまでに達していません。	○	運営者とのパイプ役として新設されたエリアマネジャーと改善事項の優先順位を協議決定して、それに従って職員全員で改善に取り組むことが望まれます。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだ、運営推進会議は設立されていませが、3月中に設立、開催するべく取り組んでいます。	○	3月中に第一回運営推進会議が開かれ、ホームの社会的意義と役割を理解、確認し合い、サービス向上につながる意見交換が行われることを期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が市のグループホーム連絡会に参加して、市の担当者と意見交換を行っています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	各利用者の家族に月1回本人の近況報告(ホーム内催し物や職員の離職を含む)を書面で送付しており、また年1回を目標として家族会を開催しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時(多い方は週2回、少ない方は月1回)に、声をかけ、意見等を聴くようにしているようですが、外部者に述べる機会が与えられるまでに至っていません。	○	3月中に運営者推進会議を設立、開催し、その後は原則的に2ヶ月1回会議が開催されることが望まれます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は殆ど行われていないそうです。離職の最小限化は種々の理由で困難なようです。職員交代の場合は、利用者へのダメージがないように配慮しています。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	利用者本人・家族が事前にホームへ見学に来たり、希望者には体験入居をして頂いています。また職員が自宅を訪問するなどして利用開始に至るまでには家族等と十分話し合いを持つようになっています。入居当初は家族に頻回にホームに出向いていただき、本人に安心感を持ってもらうようになっています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	利用者本人・家族が事前にホームへ見学に来たり、希望者には体験入居をして頂いています。また職員が自宅を訪問するなどして利用開始に至るまでには家族等と十分話し合いを持つようになっています。入居当初は家族に頻回にホームに出向いていただき、本人に安心感を持ってもらうようになっています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を人生の先輩と思っています。毎日の暮らしの中で喜怒哀楽等本人の思いに共感したりお互いが和やかに生活ができるよう声かけや場面作りをしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で利用者一人ひとりの行動や表情から思いや希望・意向を把握し、利用者の希望に添えるよう努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回ミーティングを開いており、その中でよく知る関係者の気づきや意見・アイデアを出し合い、介護計画を作っています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が変化したときには、家族、必要な関係者と話し合って見直しを行っています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の要望に対し柔軟に行う様にしています。	○	併設であるため、デイサービスに馴染みの職員もいるので今後は状況に応じて利用する事や、看護師との接点も持てるよう訪問看護ステーションとの連携も含めて柔軟に取り組んでいくことが望まれます。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療に来てもらうケースや複数の協力病院と連絡を密に行っています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状では事例はありませんが、終末の対応指針は今後の検討課題と考えているようです。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	業務日誌からは利用者の誇りやプライバシーを損ねるような記載は見当たりませんでした。認知症の方々の尊厳が求められているため、今後の勉強会等の折りに、職員の意識向上と利用者のプライバシーを損ねない対応の徹底が望まれます。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	新聞を読んだり、テレビに見入っていたり、徘徊をしている利用者、一人ひとりのペースを大切に守り、支援しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	後片づけや茶碗を洗う、もやしのひげ取り等一緒に行っています。また利用者と職員が同じテーブルを囲んで同じ物を一緒に食べています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりに声かけをして、午後毎日入浴される方もいます。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや後片づけをしたり、洗濯物をたたんでもらったり、ペーパーをたたんでもらうなどお願いできそうな仕事を頼んでいました。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には声かけをして近くの公園やスーパーに買い物、また車で遠方の公園まで出かける事もあるようです。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は原則として玄関に鍵はかけていない。利用者が外出しそうな様子を察知すると、職員の腕につけている受信機がキャッチし、利用者にさりげなく声をかけて、一緒についていく様子が見受けられました。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時に備えた訓練はこれまで一度も実施していません。	○	年2回の消防訓練を行うだけでなく、ホーム独自の避難対策マニュアル(職員の職種に応じた役割分担、避難経路、近所との協力体制など)作りに取り組むことが望まれます。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した献立を立て摂取量をだまかに把握していますが、記録には残していません。また水分の摂取状況も記録も残していません。	○	カロリーの過不足や栄養バランスが崩れないよう、定期的に市の保健師や管理栄養士等に専門的なアドバイスをもらえるような取り組みを期待します。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節の花が飾っており、廊下の壁には節分行事の写真や絵画などが貼ってあります。照明も明るく、浴室やトイレなどが清潔に保たれています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いたれた筆筒、家電品や馴染みの人形、仏壇等が持ちこまれ、入居者の居心地の良さに配慮しています。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。